

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（平成22年度第3回）議事要旨

1. 日 時 平成23年1月24日（月）14：40～16：10
2. 場 所 奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
3. 出席者 磯貝議長（学長）
村井、新名、澤田、畚野（以上理事）、木戸出、垣内（以上副学長）、
東（経営企画部長）の各委員
井上、小出、志村、宮嶌、森下、CASSIMの各学外委員
- 欠席者 石井、佐々木の各学外委員
- 出席監事 東山、三木の両監事
- 陪席者 堀江部長、鈴木、吉田、奥田、大場、林田、梅野、向井の各課長
中條環境安全衛生管理室長

（配付資料一覧）

- 資料1 経営協議会（平成22年度第2回）議事要旨（案）
- 資料2 第2期中期計画の変更について
- 資料3 本学の主な動きについて（平成22年11月25日（木）～平成23年1月23日（日））
- 資料4 中期目標期間評価に係る教育研究評価の評価報告書（案）について
- 資料5 平成23年度文部科学省予算（案）のポイント（抄）
- 資料6 平成22年度外部資金の受入れについて
- 資料7 奈良先端科学技術大学院大学創立20周年記念事業一覧、奈良先端大教育研究活動基金の創設（案）

4. 議 事

（前回議事要旨の確認）

資料1の前回（平成22年度第2回）の議事要旨（案）について、原案どおり承認された。

（審議事項）

（1）第2期中期計画の変更について

村井理事から、資料2に基づき、情報科学研究科とバイオサイエンス研究科の1専攻化やその他教育研究組織等の改組に伴う第2期中期計画の変更について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

（報告事項）

（1）本学の主な動きについて（平成22年11月25日～平成23年1月23日）

学長から、資料3に基づき、平成22年11月25日から平成23年1月23日に行われた本学の活動等について、報告が行われた。

(2) 中期目標の達成状況に関する評価結果(案)について

村井理事から、資料4に基づき、独立行政法人大学評価・学位授与機構から平成22年12月21日付けにて通知のあった中期目標期間評価に係る教育研究評価の評価報告書(案)の内容及びこの報告書(案)の取扱いについて、報告が行われた。

(3) 平成23年度予算内示等について

澤田理事から、資料5に基づき、平成23年度の文部科学省及び本学に関する予算内示の概要について、報告が行われた。

(4) 平成22年度外部資金の受入れ状況について

新名理事から、資料6に基づき、平成22年度外部資金の受入れ状況について、報告が行われた。

(その他)

(1) 創立20周年記念事業等について

新名理事から、資料7に基づき、創立20周年記念行事及びその他関連行事について、また、創立20周年を機に創設を予定している「奈良先端大教育研究活動基金(仮称)」について、併せて説明が行われた。

(学外委員からの主な意見は、次のとおり)

- ・科学技術者には、自ら汗を流して自らの専門性を獲得していくこと、また、磨き続ける感性や気づく力、思い巡らす力が必要である。そのためには、柔軟な発想や、なぜと考える批判的精神、また、世界的な視野を持つことや、インベンション(発明)をイノベーション(革新)につなげる力というものを、学生時代にどれだけ教育するかということが必要であると思う。
- ・企業が求めるものは、大学にあるものを基盤とした商品開発や応用研究である。それを踏まえ、大学は、技術者や研究者に大学時代にそういった素養を身につけさせたり、心理学を含めた人間学や人間工学といったものを教えて欲しいと思う。
- ・奈良先端大は「先端」という大学名のとおり、他の大学でやっていない「先端」をぜひやっていていただきたい。
- ・現代の科学技術においては、現在の技術の延長線上でものを考えていくだけではいけないと思う。その意味でも、広い視野を持ったものの考え方ができる学生を育てることが必要である。
- ・単に科学や技術の物知りだけではなく、感性を育むことが大事であり、その完成を育むようなシステムをつくらないといけないと考えている。奈良先端大は非常に高いポテンシャルを持っている大学であり、現学長のもと、新しい教育研究体制の改革を続け、新しい発想や今までにないものの考え方ができる研究者を育成して欲しい。
- ・奈良先端大には、高等専門学校の専攻科から入学する学生もおり、そういった学生がユニークな発想を持ち、非常に高い評価を受けているということを聞いている。そういう場を見ると、やはり様々なところから学生を集められる大学院大学であってほしいと思う。また、そうすることによって、奈良先端大の力を世の中に示していけるのではないかなと思う。

- ・京都大学に転出した山中伸弥先生のように、様々な分野から学生や教員を集め、世の中に輩出することで高い評価を得ており、また、奈良先端大は活力のある大学だということをアピールすることにより、次々と新しいエネルギーが集まってくるので、今後も続けていって欲しいと思う。
- ・将来的には、海外の留学生の同窓会組織を作り、例えば3～5年ごとに奈良先端大に呼んで、大学の現状を見てもらうことによって、海外にも奈良先端大の状況が伝わっていくような仕組みを検討されてはどうか。
- ・奨学金制度について、奈良先端大は大学院大学なので、他の大学の優秀な学生に入学して欲しいので、入学してからの奨学金だけではなく、理系に進む道筋を付けるために入学前の学部生の時から支援できるような奨学金があってもいいのではないか。
- ・3研究科からの最先端の成果により、地球規模で抱えている課題の解決に向かって、国を超え、学問を超えて想像力を見出していけるような、魅力的な国際産官学連携拠点を形成してはどうか。

以 上